
2012 年度
映画英語教育学会 (ATEM) 西日本支部
大会プログラム
(創立 10 周年記念大会)

日時： 平成 24 年 11 月 25 日 (日)
10:00~17:30 (受付開始：9:30)

会場： 京都外国語大学
1 号館 4 階 141~143 教室
受付： 1 号館 4 階

シンポジウムテーマ

『英国王のスピーチ』

The King's Speech 徹底活用法

制作年： 2010 年
配給： ギャガ
制作国： イギリス/オーストラリア
上映時間： 118 分
日本公開日： 2011 年 2 月 26 日



The **A**ssociation for **T**eaching **E**nglish through **M**ovies

大会プログラム

10:00—12:00 映画『英国王のスピーチ』上映（1号館4階・141教室）

12:30—12:40 開会の辞・支部総会（141教室）

司会：横山 仁視（ATEM 西日本支部事務局長兼副支部長・京都女子大学）

挨拶：藤枝 善之（ATEM 西日本支部長・京都外国語短期大学）

研究発表

[第1室（142教室）] 司会：近藤 暁子（奈良工業高等専門学校）

12:50—13:20 1. 「アメリカン・コメディ映画に学ぶ「笑いの取り方講座」」

成田 修司（大阪大学・非）

13:20—13:25 休憩

13:25—13:55 2. 「父をたずねて三千里『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』
で考えるハリウッド映画の構造」

國友 万裕（同志社大学・非）

13:55—14:00 休憩

14:00—14:30 3. 「『華麗なるギャツビー』のエッセンスを探る —ディカプリオ主演による
再映画化を前に」

村尾 純子（大阪工業大学）

[第2室（143教室）] 司会：衛藤 圭一（大阪産業大学・非）

12:50—13:20 1. 「ジェンダーと言語文化教育— 英語・スペイン語・ルーマニア語・日本語
におけるカニバリズム表現への認知言語学的アプローチ—」

福森 雅史（立命館大学・非）、森山 智浩（近畿大学）

13:20—13:25 休憩

13:25—13:55 2. 「テレビドラマ「LOST」を用いた正誤検証—go out, have a talk, would like to
などを例に」

田畑 圭介（金沢学院短期大学）

13:55—14:00 休憩

14:00—14:30 3. 「小学校英語活動における映画を利用した文字指導の可能性」

山本 淳子（新潟経営大学）、仲川 浩世（関西外国語大学短期大学部）

シンポジウム

[141 教室] 司会：山本 五郎（広島大学）

14:40-16:25 テーマ：映画『英国王のスピーチ』徹底活用法

1. <音声学の視点から>

“The King's Speech” - analysis based on speech therapy

上條 美和子（相模女子大学）

2. <英国文化論の視点から>

「『英国王のスピーチ』に見る英国の王室文化について」

奥村 真紀（京都教育大学）

3. <コミュニケーション学の視点から>

「『英国王のスピーチ』治療的コミュニケーションの考察：視線と転移、逆転移」

北本 晃治（帝塚山大学）

16:25-16:35 休憩

特別講演

[141 教室] 司会：井村 誠（ATEM 西日本支部研究委員長兼副支部長・大阪工業大学）

16:35-17:20 「英語スピーチへの道—ザ・MOT（もっと）アプローチ—」

三熊 祥文（広島工業大学）

17:20-17:25 閉会の辞

藤枝 善之（支部長）

倉田 誠（大会実行委員長・京都外国語大学）

17:40-19:10 支部創立 10 周年記念交流会

於：「鉄板焼き楽楽」（京都外国語大学前）

挨拶：藤枝 善之（支部長）

角山 照彦（ATEM 会長・広島国際大学）

研究発表概要

[第1室 (142 教室)]

●「アメリカン・コメディ映画に学ぶ「笑いの取り方講座」」

成田 修司 (大阪大学・非)

アメリカン・コメディ映画の、日本語に訳しにくい「笑わせセリフ」ばかりに注目して学生の好奇心を引き出し、映画を利用した英語学習への興味を高めるための提案をする。日本人の笑わせ方とは異なる切り口で笑いを取りに行くアメリカ映画の手法を学生に紹介して、笑うべきところで笑えるユーモア感覚を磨く事も目的とする。また、それらのセリフが字幕や吹き替えでどの様に訳されているかを紹介する事により、翻訳者の苦心を考えながらお笑い文化への理解を深める。具体例として『アンドリュー-NDR114』の主人公アンドロイドの人工的で不自然なセリフ、「僕らのミライへ逆回転」でのレンタルビデオ店長文盲疑惑事件、テレビ番組のシチュエーションコメディ『フルハウス』での慣用句文字通り解釈笑い等を紹介する。そして2010年の支部大会にて発表したDVDリスニングレポートについても最新報告を行う。

●「父をたずねて三千里『ものすごうるさくて、ありえないほど近い』で考えるハリウッド映画の構造」

國友 万裕 (同志社大学・非)

映画を使って、英語だけではなくアメリカの文化について教えることは重要なことだと思われる。ハリウッド映画は、歴史の流れに沿って、表面的には変わっても話の骨格はほとんど変わろうとしないことは、映画論者たちから指摘されてきた問題である。そして、その骨格とは、フロイトのエディプス・コンプレックスの理論であると思われる。すなわち、父と息子の関係がアメリカ映画の大きな軸となる。どの映画も煎じつめて解体していけば、フロイトに行きつくと言っても過言ではないだろう。言い換えれば、父親探しの物語を、手を変え、品を変え、連綿と語り続けるのがハリウッド、引いてはアメリカ文化であると言っているのではないか。21世紀になっても、その骨格は基本的に変わっていない。本発表では、『ものすごうるさくて、ありえないほど近い』(2011)を使い、この問題について考える。

●『「華麗なるギャツビー」のエッセンスを探る —ディカプリオ主演による再映画化を前に—

村尾 純子 (大阪工業大学)

F. スコット・フィッツジェラルドの The Great Gatsby (邦題『華麗なるギャツビー』) が、レオナルド・ディカプリオ主演で再映画化され、来年5月に公開予定である。これで映画化は5度目と言われるが、原作は1世紀も前の小説である。出版当時の人びとが共有していた個人的および歴史的記憶が1世紀も経ってほとんど失われる中、この作品の失われない「エッセンス」とは何かを考えたい。ギャツビーの出来事を目撃する語り手ニックが認めたくない事実であり、実はギャツビーの、あるいはニックの求める夢の背後にあり、それを下支えしているものは、作品に書き込まれない事実なのかも知れない。時を経てもなお輝きを失わないこの作品は、複数の映画化を通してどのような魅力を放つのか、1974年版、2001年度版の映画を参照しながら考察したい。

[第2室 (143 教室)]

●「ジェンダーと言語文化教育— 英語・スペイン語・ルーマニア語・日本語におけるカニバリズム表現への認知言語学的アプローチ—」

福森 雅史 (立命館大学・非)、森山 智浩 (近畿大学)

本発表では、『セックス・アンド・ザ・シティ・ザ・ムービー』を中心に様々な映像資料を活用し、認知言語学の見地から「人間の性欲が食人文化に根差す」というフレームが異言語間にまたがって存在するこ

とを観察する。その主たる目的は、高等教育においてジェンダー言語態に関する言語文化の教育基盤の一端を提示することにある。具体的には、パリ人肉事件を契機に、身体部位の参加者の中でも性的食人表現に胸部がプロファイルされるためのベースとして機能する人体構造化認識に光を当てる一方、そうした表現に選択制限が生じる場合には食に関する民族言語文化の相違が目標領域を規定するためのトリガーとなり得ることを観察する。その後、性的食人表現を成立させる経験のゲシュタルトが如何なるスクリプトによって構成されているかを図地分化の観点から見つめ、最終的には、そこから導き出されたフレームが理解行為に関する構造のメタファーをも支える動物性として明確な境界を表さない内在性を持ち得ることを確認する。

●「テレビドラマ「LOST」を用いた正誤検証—go out, have a talk, would like toなどを例に」

田畑 圭介（金沢学院短期大学）

テレビドラマ「LOST」の発話を基本資料として、日常的に用いられるいくつかの英語表現の用法を確認し、英語母語話者の判断を交えながら、英作文等で誤りやすい表現をまとめていく。本発表で論じる英語表現は「出かける」に対応する「go out」、「話す」に対応する「talk」「have a talk」、「～したい」に対応する「would like to」などである。英作文の際に和英辞典を参考に作文していくと、一つの日本語に対して複数の英語表現が見つかるが、それぞれの表現が必ずしも均一に用いられるわけではなく、ある種の使い分けが存在することが「LOST」の発話を通して確認できる。例えば have a talk は「話す」というよりも「話し合う」「相談する」といった意味で用いられていることが LOST の登場人物のやりとりから確認できる。こうした発話の例を通して英作文等で誤りやすい表現を英語母語話者の判断を交えながら提示する。

●「小学校英語活動における映画を利用した文字指導の可能性」

山本 淳子（新潟経営大学）、仲川 浩世（関西外国語大学短期大学部）

2012年4月から、日本の小学校5,6年生を対象にした英語活動が正式に始まった。教材として「Hi! Friends」が多くの小学校で使用されている。それは、「聞く・話す」内容が中心で、文字指導の要素は極めて少ない。アジア諸国と同じように、日本でも英語教育導入時から音声と読み書きを有機的に結びつけて習得させた方が、小中連携の面からも望ましい。ただし、子どもの発達段階を考えると、中学校の前倒しのような形ではなく、彼らの興味・関心に合った、遊び感覚で楽しみながら学べる環境を整えるべきである。現在英語指導を行っている小学校でやりたい学習形態についてアンケートをとり、その因子分析を行ったところ、「遊び感覚」に関わる因子では、一番目に影響度が高かったのが、ゲームや歌を抜いて「映画で表現を覚える」であった。この結果をもとに、子供向けの映画（Toy Story など）に Google Video を使って英語や日本語のキャプションを入れ、教材を試作した。以上の内容について発表を行う。

シンポジウム発表概要

●“The King's Speech” - analysis based on speech therapy

上條 美和子（相模女子大学）

Key words: “The King's speech”, speech therapy, articulation, linguistic motor task

The movie “The King's speech” based upon a true story of King George VI (a.k.a. Bertie) is about the struggle of overcoming his stammer with his speech therapist, Lionel Logue. The techniques used to balance Bertie's linguistic motor task is very unique and the reasoning of the effect is interesting when analysed. Lionel's approach, in fact works out to make a lot of sense in terms of linguistic articulation, and new speech treatment is approached and developed based on the phenomenon introduced in this movie.

This study starts by introducing speech and therapy scenes of celebrities that have overcome stammer, of

which highlight will be the former Prime Minister of the United Kingdom, Margaret Thatcher. It follows by focusing on Lionel's speech treatment approach: use of headphones and phonograph, singing out words, practicing vowel articulation, use of swear words, yelling out the window and adding phonemes to start articulation. Interestingly enough, some techniques of which are actually introduced in English as a Foreign Language practice scenes.

The study closes by pointing out that this movie is not only informative and fun, but provides authentic English language usage to EFL learners, knowledge of history, as well as pseudo experiences (i.e. in this case, the speech that moved many British citizens heart.)

M. Atkinson, *Our Masters' Voices : Language and Body Languages of Politics* (London, 1984), p.113

● 『英国王のスピーチ』に見る英国の王室文化について』

奥村 真紀 (京都教育大学)

2012年には、イギリスではエリザベス女王の即位六〇周年記念行事が開催され、改めて現女王の人気を感じられたが、英国王室はイギリス国民にどのように受け入れられてきたのだろうか。一九世紀には他を寄せ付けぬ繁栄をきわめた英国は、二〇世紀の二つの大戦を経験して大きく変貌する。『英国王のスピーチ』は、現女王の父、ジョージ五世が人間としての弱さに苦しみながら、吃音という障害を乗り越えて、大戦に向かう国民を励まし、心をつににするように呼びかける。国王のあり方が問題となったこの時代を、歴史的な視点を踏まえて、映画の中から読み解き、またアカデミー賞を取ったこの映画の現代性にも目を向けてみたい。

● 『英国王のスピーチ』治療的コミュニケーションの考察：視線と転移、逆転移』

北本 晃治 (帝塚山大学)

映画『英国王のスピーチ』のメインテーマは「友情」である。そしてその成立過程を特徴づけているのが、ジョージ6世とライオネルの「王」と「一般民」という絶対的地位の差と、「患者(吃音者)」と「治療者(言語療法士)」という非対称的な関係性の対立である。前者の力関係が、後者の治療上の妨げになると確信するライオネルは、王を「パーティ」と愛称で呼ぶ。この両者の絶対的差異(異文化性)に基づく二人のプライドは、映画の中では数パターンに亘る互いの視線の交錯という形で、象徴的に見事に演じられている。さらに、そこで展開されている治療的コミュニケーションには、多分に心理療法的意味合いが含まれており、「パーティ」と「ライオネル」の間で、それぞれが持つ様々な心理的要素が相互に投影され、両者の深い「友情」を結果的に紡ぎだす要因となっている。本発表では、この「視線(まなざし)」の持つ意味合いについて、分析的コミュニケーションモデルの中で考察する。

特別講演発表概要

● 「英語スピーチへの道—ザ・MOT(もっと)アプローチ—」

三熊 祥文 (広島工業大学)

古代ローマに確立したスピーチコミュニケーションの基本といえば5 canons である。5 canons とは、「発想、配列、修辞、記憶、発表」のステップであるが、前半3つは原稿作成、後半2つはリハーサルのことであると整理して差し支えないだろう。私は、前者において脳科学の「アハ体験」に倣って「『あっ』という驚き、『なるほど』という納得をもたらすスピーチ」を「アハ・スピーチ」と呼び、目指すべきスピーチのあり方を提示してきた。その「アハ・スクリプト」をもってして後者の二段階に長じるための方法論が、私が「ザ・MOT(もっと)アプローチ」と称しているものである。今回は、スピーチの実践と指導から生まれたスピーキングの訓練法として「記憶、発表」に特に焦点を当てた「ザ・MOT(もっと)アプローチ」を紹介し、そこに英語教育資源として映画を用いることとの接点を考えてみたい。

会場校キャンパスマップ



会場校へのアクセス

所在地

〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6

TEL : 075-322-6012



- 阪急電車「西院駅」から、西へ徒歩約15分
または、「西大路四条(西院)」から市バス3・8・28・29・67・69・71に乗車、「京都外大前」で下車(乗車時間約5分)
- JR「京都駅」
烏丸口から、市バス28に乗車、「京都外大前」で下車(乗車時間約30分)
または、京都バス81・83に乗車、「京都外大前」で下車(乗車時間約30分)
八条口から、市バス71に乗車、「京都外大前」で下車(乗車時間約30分)
- 地下鉄東西線「太秦天神川駅」から、南へ徒歩約13分

これまでの ATEM 西日本支部大会シンポジウムテーマ

【支部大会】

2002年9月14日	映画英語教育学会関西支部設立決起大会開催（於：京都外国語大学）
2003年9月14日	映画英語教育学会関西支部 第1回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「怪物映画に学ぶドラキュラ vs フランケンシュタイン Vs スパイダーマン」
2004年6月26日	映画英語教育学会関西支部 第2回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「"Working Girl" 徹底活用法」
2005年9月18日	映画英語教育学会関西支部 第3回大会開催（於：京都女子大学） ●シンポジウム：「"DAVE" 徹底活用法」
2006年10月21日	映画英語教育学会関西支部 第4回大会開催（於：大阪工業大学） ●シンポジウム：「"I am Sam" 徹底活用法」
2007年10月20日	映画英語教育学会関西支部 第5回大会開催（於：摂南大学） ●シンポジウム：「"The Devil Wears Prada" 徹底活用法」
2008年10月18日	映画英語教育学会関西支部 第6回大会開催（於：京都ノートルダム女子大学） ●シンポジウム：「"Anne of Green Gables" 徹底活用法」
2009年09月26日	映画英語教育学会関西支部 第7回大会開催（於：帝塚山大学） ●シンポジウム：「"LITTLE MISS SUNSHINE" 徹底活用法」
2010年09月25日	映画英語教育学会関西支部 第8回大会開催（於：近畿大学） ●シンポジウム：「"SHANE" 徹底活用法」
2011年10月08日	映画英語教育学会関西支部 第9回大会開催（於：京都女子大学） ●シンポジウム：「"Twelve Angry Men" 徹底活用法」

【映画英語学ワークショップ】

2009年5月9日	映画英文法ワークショップ 第1回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「英語の時制表現に関する一考察」
2010年5月8日	映画英文法ワークショップ 第2回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「認知言語学で読み解く映画の英語 一中・高・大の授業の活性化をめざして」
2011年5月14日	映画英語学ワークショップ 第3回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「語用論で読み解く映画の英語」

※第3回大会よりワークショップ名を変更

お知らせ

【お知らせ：大会参加費について】

会員・非会員とも大会参加費は無料です。
どなたでも自由に参加できます。ご来場をお待ちしています。

【お知らせ：発表者の方へ】

発表者の控え室として、144 教室を用意しています。ご利用ください。

【お知らせ：出版物展示】

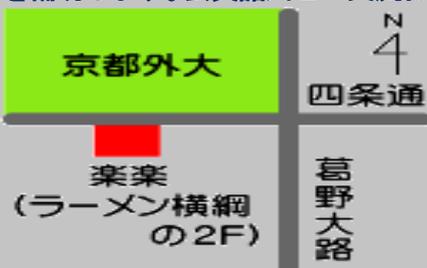
西日本支部会員による出版物を中心に、会場前の通路に「展示コーナー」を設置します。
会員諸氏の著書や教科書などを、積極的に持ち寄り展示してください。

【お知らせ：学内昼食場所】

大会当日は日曜日のため、学内カフェテリアは休業しております。
会場の東隣りには「京都ファミリー」が、会場周辺にはコンビニ等
がありますので、こちらをご利用ください。

【お知らせ：交流会参加費について】

参加費は大会受付にてお支払いください。一般会員は 3,500 円、学生は支部より 1,000 円
を補助します。会員諸氏との交流および発表者との意見交換の場として是非ご参加ください。



新会員申込は本部 HP (<http://www.atem.org/>) から

電話・FAX または E-mail でお申込みください。

申込先：映画英語教育学会 事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-3-12 アルク高田馬場 4F

株式会社 広真アド内

TEL: 03-3365-0182 FAX: 03-3360-6364

E-mail: office@atem.org

ATEM Nishinohon

<http://www.atem.org/kansai/index.html>

映画英語教育学会 (ATEM) 西日本支部

事務局：京都女子大学・外国語教室

横山 仁視 研究室内

yokoyama@kyoto-wu.ac.jp

(協賛出版社)

金星堂、朝日出版社、松柏社、成美堂、ピアソン桐原、

くろしお出版、新潮社、近代映画社、JDC、ジャパントイズ週刊 ST